

Close up town and DHC Future Style ②

全国熱供給エリア紹介 特別編②

中之島二・三丁目地域

(株)関電エネルギーソリューション



「河川水の未利用エネルギーを100%活用した地域熱供給」

二本の河川に囲まれたエリア

大阪は水の都と呼ばれ、中之島公会堂等著名な建築物が立ち並ぶ中之島は、南北を堂島川と土佐堀川に囲まれた独特な地形を有している。当該エリアは、これまで大阪における国際化、文化、ビジネスの中心として開発が進められてきた。

そのような中、老朽化が進んでいた中之島三丁目のダイビル(株)のダイビルと、関西電力(株)と関電産業(株) (現：関電不動産開発(株)) の関電ビルディングが、平

成9年に共同開発によって建て替えられることが計画、発表された。開発の特徴として、河川水利用と氷蓄熱システムを採用した地域熱供給（地域冷暖房）を導入する等、省エネルギーと電力コストの低減に寄与する「負荷平準化型開発」を目指すことがあった。



当時の関西電力(株)では、河川水の未利用エネルギー活用の研究を進めており、中之島三丁目での実現に向けて、敷地、道路、緑地等の所有者、管理者等と交渉し、行政の理解も得て、実現にこぎつけることができた。

供給先となるビルの建設はⅢ期計画で進められ、熱供給は平成17年1月にⅠ期の関電ビルディングからスタートし、その後、Ⅱ期の中之島ダイビル、同時期に開業



営業地域図

